

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成23年9月15日(木) 午後7時00分から午後9時00分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 講堂
4	出席者	飯島一雄委員、池田恵一委員、上原和彦委員、大滝祐治委員、大日方孝委員 金井定男委員、桑田まなみ委員、坂口久美子委員、佐藤和雄委員、関貞徳委員 財部浩子委員、田中新平委員、田中豊年委員、堀内厚子委員、山口市江委員 若林ゆき子委員 【欠席委員】4名 真田地域自治会長28名(協議会委員4名含)
5	市側出席者	笠原センター長、荒井地域振興課長、大塚市民生活課長、若林健康福祉課長 大塚産業観光課長、中山建設課長、佐藤上下水道課長、藤沢教育事務所長 深井真田消防課長、滝沢地域政策係長、中村庶務係長、林主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成23年9月27日
協 議 事 項 等		
真田地域協議会・真田地域自治会連絡会議懇談会		
1	開 会	(荒井地域振興課長)
2	真田地域自治センター長あいさつ	(笠原センター長) 上田市は3月に自治基本条例が制定し、活力ある自立した地域社会の実現を目指している。真田地域自治センターでは、地域づくり委員会、自治会、自治会連合会、自治会連絡会議、地域協議会それぞれの組織があるが、これらの組織を連携し、それぞれの立場の権限を尊重し協力し合い住民参加と協働した、まちづくりを進めていきたいと考え本日の懇談会を設けた。地域協議会ではこの地域の課題を整理し3つの分科会にて協議が進められている。その中で、本日は第一分科会において地域づくり委員会を今後どのようにしていったら良いのか等々、協議した内容を自治会長の皆さんにお話し、これからの地域の組織全体を見直す方向が見えてくるのではないかと思う。また、上田、丸子、武石、各地域には真田地域のような地域づくり委員会という組織は無く、上田市としても真田の地域づくり委員会を参考とし、真田地域以外の地域でも地域づくり委員会を設けたいと考えており、地域づくり委員会のあり方をこれから研究していくこととなっている。本日は、第2、第3分科会の報告もあり自治会長の皆さんから御意見をいただきながら、より良いまちづくりを進めたい、その第一歩となる懇談会が開催できたことに感謝申し上げます。
3	真田地域協議会長あいさつ	(佐藤会長) 地域協議会は、地域住民の意見を集約し、政策づくりの段階から地域が参画・協働でのまちづくりを進めるために設置されている。その役割のひとつに地域のよさを活かしながら地域まちづくり方針の具体化を検討することが挙げられている。地域まちづくり方針には、色々なテーマがあるが地域協議会では3つの分科会にて協議を進めてきた。本日その概要について各分科会長から説明させていただくが、検討内容を具体化するためには地域の皆さん、特に自治会長の皆さんの御協力が不可欠です。特に第一分科会で協議を進めている地域づくり委員会のあり方というテーマについて、自治会長の皆さんにも議論に参加していただき、色々な御意見を頂きたいと考えている。新生上田市誕生以来地域らしさを活かした分権型の住民自治の実現を求められているところであるが、地域づくり委員会という組織は、真田地域独自の取り組みとして全市の地域から注目され、期待もされているので活発な議論をお願いしたい。今後の協議会の議論に生かしたいので、忌憚のない御意見を活発にお願いしたい。また、地域特性を活かした魅力ある住みやすいまちづくりを進めるために今後も自治会長の皆さんと地域協議会の連携を図りたいと考えているのでよろしく申し上げます。

4 真田地域連絡会議会長あいさつ（飯島会長）

地域協議会には、自治会を代表して各自治連の会長3名が委員として参加している。地域協議会は市に対し意見書を提出することはできるが、具体的に事業を実施する組織ではない。我々自治会と地域協議会が連携し、取り組まなければ地域を良くするための事業は困難であろうと思う。今日は地域協議会で話し合われた内容について報告を聞き、自治会長として日頃感じていることや報告に対する意見を遠慮なく出していただきたい。地域協議会ではそれらを生かして今後の話し合いを進めていただきたいと思う。

5 会議事項

(1) 真田地域協議会について（別添資料1）

～資料に基づき、事務局から説明～

(2) 真田地域協議会協議内容の概要について

真田地域まちづくり方針（別添資料2）

～資料に基づき、真田地域協議会 佐藤会長から説明～

分科会協議報告

～資料に基づき、第2分科会 大日方分科会長から報告～

真田地域まちづくり方針の「地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備」について主な2つのテーマにより協議を進めてきた。1つは国道144号や406号線などの幹線網と日常生活に密着した生活交通網の一体的整備による地域経済の活性化。もう1つは安全で快適な通勤・通学を実現するため国道144号上田バイパスの早期整備に向けての取り組み。第2分科会では特にバス乗客数を増やすことによる路線バス維持の方法について協議を進めてきた。現状と課題としては、自家用車の普及によりバスに乗車することが少なくなっている。路線バスは減少傾向であり真田地域でも平成17年まで黒字であった菅平高原線が赤字となるなど厳しい状況となっているが、路線バスを如何にして真田地域に残していくかを考えている。真田地域公共交通利用促進協議会の準備会も発足し検討に入っている。路線バスに関するアンケート結果からも利用の低下が顕著に見られた。デマンドバスやオレンジバスなども検討したが課題もあり、路線バスを主体とした公共交通網の維持が望ましいと考え、次のとおり提案をした。1つは、地域住民にいかに乗ってもらうか。もう1つは、この地域にいかに人を呼び込むか。観光に力を入れた案である。2014年には真田幸村大阪城入城400年ということでNHK大河ドラマ放映の署名活動をしているが、これを機に真田地域の観光地化を推し進めて観光客にバスを利用してもらうという案。菅平高原線は、朝夕は通勤通学客が利用するが、昼間は観光スポットを周るなどして利用向上を図りたい。路線バスを利用した観光バス風の運用をする案を考えた。また、自転車通学の学生について自転車を積載できるバスを検討した。さらに、乗りやすいバスや停留所などの整備等、乗りやすいバス路線ということも協議している。

【主な質疑・意見等】

- ・ なし

～資料に基づき、第3分科会 上原分科会長から報告～

真田地域まちづくり方針の「安心して暮らせる地域づくり」について協議を進めてきた。この中には、保健、医療、福祉、教育、防災など多岐にわたる大きな枠組みとなっており、テーマを3つにしぼり協議してきた。昨今の豪雨災害や大震災により防災体制に関することが注目されていることから防災に関することを重点として協議している。震災後に市では防災マニュアルが作成され、災害情報のメール配信なども行われている。この2つが有効であるとして、これの普及について検討している。真田地域で困っている防災関係の問題点を洗い出し、防災に関する次の3点について意見書として提出しようと考えている。自主防災組織見直し、避難

場所見直し、災害時要援護者の対策として住民支えあいマップの活用などを協議した。

【主な質疑・意見等】

(自治会長) 各分科会で検討のこととは思うが、今後、保健や医療、福祉などについては負担が増加している部分だと思うが、これについて真田地域協議会が、こうしようという意見を持って金銭的な部分の実現できないと思う。これからの高齢者の増えた社会で安心して暮らせるのが疑問だが、どのように考えるか。

(上原分科会長) 社会保険制度などについては上田市全体のことであるため、真田地域だけこのようにするということはできないであろう。分科会での協議は、真田地域で出来ることを中心に考えている。上田市全体の金銭的な部分についての意見提案はできないと思う。

(自治会長) 市への提言は出来るのではないか。また、市から国や県へ働きかけるといってもできるのではないか。このようにしていきましようというのは考えているか。真田地域協議会なので、真田地域としてこのようにしていきたいという考えはあっても良いのではないか。

(荒井地域振興課長) 地域協議会での検討内容は、テーマを絞り、3つの分科会で協議し、行政への提案をしていこうとしている。第3分科会では防災について、実働しうる防災について検討している。現在協議しているのは3つのテーマについてだが、その他のテーマについては今後協議していく。

(笠原センター長) 医療などの課題については、国、県、市が政策的に関与し、政治的に動く部分が多い。地域協議会ではその政策に基づいて真田地域の皆さんがそれをどう生かしていくのか、課題を出し掘り下げて市へ意見書を出す。住民支えあいマップについては国で作成の指示があるにも関わらず、なぜ真田地域は作成できないのか、これについて地域協議会の中で実態を調査しながら、課題を的確に捉え、解決に向けての意見を出すように、地域協議会は身近なことについて意見を出し合い、論議することとなっている。保険制度などについても今後、課題として出た場合には協議会で協議する。

(3) 1 地域づくり委員会の今後のあり方について

～資料に基づき、第1分科会田中分科会長から報告～

生活に密着した自治会単位での課題や要望など比較的小規模の案件について真田地域以外の自治会では、自治会長が要望を取りまとめて市役所に提出するということが一般的に行われているようだが、真田地域では旧真田町時代から地域づくり委員会を組織し発展させ、地域の様々な団体等と連携するなかで地域住民との協働によるふるさとづくりを推進してきている。分権型の住民自治の実現がより一層求められているなかで、地域づくり委員会は真田地域だけでなく上田市全体で大きな可能性を持ち注目されている。第一分科会では、昨年からの地域づくり委員会の継続発展に課題を絞り議論や検討を重ねており内容の報告とともに若干の提言をしたい。地域づくり委員会の現状は、菅平自治会を除き、自治会内の地域限定的な課題を行政に要望するだけのことが多いようである。議論のなかで地域づくり委員会の問題点として、自治会内の限られた範囲で会を開催するため身の回りの細かな事業要望に終始し、まちづくりや創意工夫につながる部分が非常に少ないこと、地域を超えた広域的な範囲で議論する場がないことなどが挙げられ、これらを課題点として整理し、次のように提案したい。(1) 地域づくり委員会の目的、役割を行政からの情報伝達と提起する課題についての協議、地域からの提案型の意見を求めるものに変える。(2) 必要に応じ自治会連合会の範囲で地域課題を検討する場を設け、各種団体との意見交換の場とする。(3) 地域自治センターが自由裁量できる予算を確保。(4) 継続性を担保するため、自治会役員任

期の複数年化や実行組織づくり、既存の団体の活用を検討する。

(3) 2 分科会協議

～ 第1分科会は、自治会長と協議～

～ 第2分科会、第3分科会は、それぞれ分科会協議～

(4) その他

(会長) 分科会協議に分かれる前に協議会、自治会の皆さんから御意見、御報告は何かありますか。

【主な質疑・意見等】

・ なし

(事務局) 第7回協議会の開催予定について、平成23年10月19日(水)午後7時30分から
第2回真田地域自治会連絡会議の開催予定について、平成23年11月25日(金)

6 閉会

～ 各分科会に分かれ協議。第1分科会講堂、第2分科会 302会議室

第3分科会 303会議室～

～ 各分科会毎に閉会～